

評価に係るQ & A（各委員からの質問事項等に係る法人及び県の回答）

○令和4年度業務実績に係る意見等

I 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 政策医療、高度・専門医療の確実な提供

質問事項等 1

【佐藤（裕）委員】

（精神医療センター）

身体合併症への対応については、関係機関とのネットワークの構築、連携強化の取組がなされていると記載されているが、具体的にどれくらいの患者数があり、どのような病院と連携しているのか教えてほしい。

<回答>（法人）

【患者数】

・転院

令和4年度 16件、 参考：令和3年度 16件

・他科受診（延べ数）

令和4年度 198件、 参考：令和3年度 289件

【転院先】

- ・仙台市立病院
- ・東北大学病院
- ・みやぎ県南中核病院
- ・総合南東北病院

質問事項等 2

【佐藤（裕）委員】

（精神医療センター）

入院患者数が前年比でも目標値比でも大きく減少している。外来患者数はほぼ横ばいであるのに入院数の減少が常勤医師の減員だけで説明できるのか疑問である。

<回答>（法人）

精神科救急病棟の入院患者数は前年比で微増であり、慢性期病棟と児童・思春期病棟が入院患者数減の要因となっているが、理由については下記のとおりと考えている。

【慢性期病棟】

- ・平成16年（2004年）の「入院医療中心から地域生活中心へ」とした、厚生労働省の方針に基づき、公立病院として積極的な「地域移行・地域定着」を推進しているため、入院患者が減少している。

【児童思春期病棟】

- ・常勤医師2人体制（令和元年度は4人体制）となっていることが影響している。
- ・施設の老朽化、患者や家族のニーズを満たせない病棟構造（男女別ユニットに分かれていない、入棟するためには成人病棟を通過しなければならない等）が影響していると考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行による面会・外泊等の制限による影響、生活の変化（学校生活での対人関係の接触頻度減少など）が影響したと考えられる。

(3) 地域医療への貢献

質問事項等 3

【佐藤（裕）委員】

（精神医療センター）

紹介率が目標率を大きく下回り、近年では突出して低い数字となった。原因について調査・探求すべき。

＜回答＞（法人）

当センターでは、再来新患など、患者個々のケースに応じて紹介状の有無にかかわらず新患を受け入れているため、紹介率が低い傾向にある。

また、精神科救急急性期の患者が増加傾向にあることも要因と考えている。

(4) 医療に関する調査研究と情報の発信

質問事項等 4

【佐藤（裕）委員】

（がんセンター）

医療機関向けセミナー・医療相談会はともに目標を超えて開催している。

一方、学会発表実績は目標値比・前年度対比いずれも下回り、学会参加実績は目標値を上回ったものの前年比では下回っている。専門誌への寄稿件数は目標値比・前年度比ともに下回っている。これらの状況からすると研究機能が十分に果たされているのだろうかという疑問が残る。

＜回答＞（法人）

がんセンター全体としては下がっているが、研究所のみで見ると発表実績、専門誌への寄稿件数は横ばいで推移しており、参加実績については前年度を上回っている。また、東北大学と連携を図りながら研究を実施し、科研費採択件数・金額は目標を上回っていることから、研究機能は十分に果たされているといえる。

4 人材の確保と育成

質問事項等 5

【佐藤（裕）委員】

（がんセンター）

着実に取り組んでいるが、医療系学生の受け入れ数が低迷していることが気がかりである。学生にとって魅力のある病院になっているのだろうか。

＜回答＞（法人）

令和3年度からの医療系学生の受入数減は、直接対面での指導になるため、コロナ禍の影響もあったが、一番は隣接する宮城県高等看護学校の閉校（令和5年度）によるところが大きい。

現在、県高等看護学校は、卒業年度の学生しか在学していない状況であるが、それに代わる実習受入校として仙台市医師会看護学校と他1校の受け入れを開始しており、今後、受け入れ数は増加するものと思われる。

Ⅹ その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

3 病院の信頼度の向上

質問事項等 6

【郷内委員】

(精神医療センター)

病院機能評価の認定実績が平成29年度からストップしていることは由々しき問題
6年間も放置されていることは、信頼度を大きく損なうと危惧します。外部のチェックが入らないことは診療提供体制が担保されているのか？確認できない。

<回答> (法人)

平成25年3月15日に認定期間満了になることから、平成23年8月に「病院機能評価受審推進委員会」を立ち上げ、更新に向けて検討を行っていたが、新病院建設の計画が並行して進んでおり、当センターの最重要課題である新病院建設に向けた作業を全職員が全力で取り組む必要があることから、認定更新は行わず、新病院開院後に改めて受審することとした。平成28年度には、日本医療機能評価機構の院外サーベイヤー(評価調査者)を講師に招き、自己点検の在り方について研修会を開催し、以後は毎年自己点検することにより代替措置としている。

その他

質問事項等 7

【石岡委員】

(令和4年度の評価について)

年度ごとの評価方法が2病院の実態を正當に評価できるかどうか疑問がある。評価方法の在り方に関して検討会を設置するなどして、年度ごとの評価方法を見直すべきである。

<回答> (県)

資料6-2の質問事項2にて回答